

子どもの歴史的町並みに対する認識

—— 愛媛県宇和町卯之町地区を対象として ——

曲 田 清 維・福 岡 実 和

(住居学研究室)

(平成10年4月30日受理)

A Children's Recognition of Historical Townscape

— A Case Study in Unomachi area of uwa-cho, ehime-ken —

Kiyotada Magata, Miwa Fukuoka

1. 研究の目的

子ども達は現在のそして将来の環境における主人公の一員であるとともに、まちづくりの担い手でもある。子ども達は自らが過ごす環境において、日々環境から様々な影響を受け、同時に環境に対しての意見や批判も持ち合わせている。こうした子どもの目から見た空間のあり方や子どものもつ感性は、大人の目から見たそれよりも新鮮でかつまちづくりに有効なものがしばしば存在する。そんな子どもの視点をまちづくりに生かすと同時に、子ども参加のまちづくりを探ろうとする試みが各地で生まれつつある。

筆者らはこれまで、子どもの景観認識を探った愛媛県内子町での調査¹⁾や、松山市三津浜地区における子ども参加のまちづくり活動の研究²⁾を通して、主として子どものためのまち空間のあり方及びまちづくりのあり方を探ってきたが、今回はさらに、伝統的町並みを有する愛媛県宇和町を舞台に、そこでの複数の町並み或いは通りを提示する中で、それぞれの町並みに対する子どもの空間認識と、特に地域学習(或いはまちづくり学習)がそれらに与える影響について、若干の考察を深めようとしたものである。

2. 研究の方法

(1) 調査対象地の概要

宇和町は、愛媛県の南に位置する人口約18,000人の町で、近年「宇和文化の里」として脚光を浴び始め、県の歴史文化博物館の開設や近代擬洋風建築である「開明学校」の国の重要文化財への指定(1997年3月)などを受けて、活気を取り戻しつつあるところである。

江戸末期の町家が建ち並ぶ中町通りは、中心部の卯之町を縦断する形で位置し、商店街や国道と並行して通っている。中町は、江戸期に宇和島藩唯一の在郷町、宿場町として栄え、その通りには、白壁に、半葺、卯建の町並みが今も息づいている。

また、宇和町のほぼ中心部の子ども達が行く宇和町小学校は、中町通りの西北端に位置し、多くの子ども達には中町通りは無論のこと、商店街や国道沿いの施設は比較的よく知られたものとなっている（図1）。

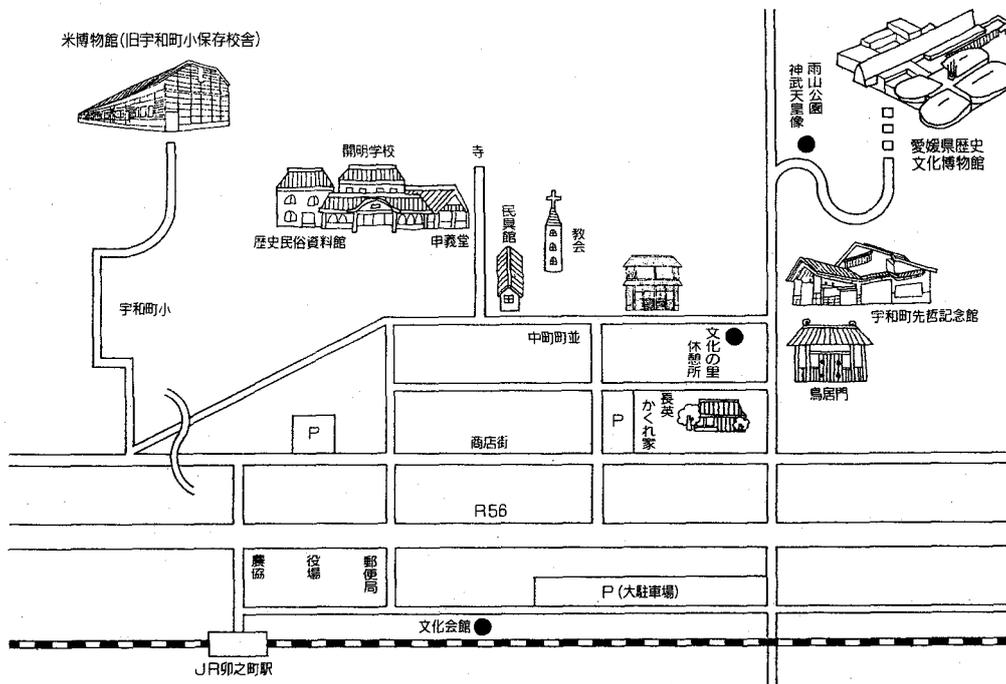


図1 宇和文化の里あんない図（宇和文化の里 學遊の手引き：宇和町作製）

(2) 研究の方法

本研究では、子どもの歴史的空間に対する認識を把握するため、まず第1に中町通りを中心とするいくつかの通りが子どもの目にどう映るか、次いで子どもの町並みの保存に対する認識、さらには子ども自身のまちづくり参加の意識について尋ねた。そのために子ども達に、中町通り、商店街通り、国道56号線の通りの写真をカラーで提示し、それぞれの連続した町並みや通りを比較しながら各通りの評価を問うとともに、特に中町通りを中心とした好感度の把握を試みた。また、子ども達の町並みを構成する施設の認知度も合わせて検討した。

アンケートに答えた子ども達は、宇和町小学校の4・5・6年生の児童であり、教室での一斉記入によるアンケート方式として実施した。小学校の上学年に限定したのは、主として小学校社会科における地域学習が4年生で一段落し、自分たちの町を中心とした問題に無理なく回答ができるであろうことを考慮したためである。調査票の回収結果は、4年生117票、5年生103票、6年生91票、合計311票（有効回収率は100%）、調査時期は1997年11月下旬である（表1）。

表1 調査対象者数（宇和町小学校）

| | 男子 | 女子 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|
| 4年生 | 60 | 57 | 117 |
| 5年生 | 50 | 53 | 103 |
| 6年生 | 46 | 45 | 91 |
| 合計 | 156 | 155 | 311 |

3. 町なみに対する好みと評価

町の中心部を南北にわたっている「中町通り」「商店街通り」「国道56号線」の3つの通りは、卯之町の時の変遷を象徴しており、中町通りは近世の、商店街通りは近代の、国道56号線の通りは現代の、それぞれの時代を反映した姿となっている。これらの通りに対する子ども達の好みや評価を計ることによって、彼らの町並みに対する思いを探っていくことを試みた。

まず、子ども達に3つの通りのカラー写真を提示し、そのうえで、それぞれの通りに対する評価を選択させた。選択項目は、町並みに対する肯定的評価と否定的評価を織り交ぜた12項目であり、まずは各通りに対する評価を概略把握していく。

(1) 「中町通り」の評価

伝統的な町家が建ち並ぶこの古い町並みを、子ども達はどのように捉えているのだろうか。子ども達の中町通りに対する好みや評価は、どの項目についても学年による差異は少なく、大凡平均しているといえる(表2)。

肯定的評価については、約8割が「町並みが落ち着いている」「古い家に歴史を感じる」とし、多くの子ども達の中町通りの歴史的町並みに好感を抱いているといえる。また、「親しみがある」については、4年生27.4%、5年生34.0%、6年生39.6%と、学年があがるにつれて比率が高くなる。

逆に、「建物や町並みが古くさい」と否定的に感じる子どもはわずかであり、4年生16人、5年生8人、6年生9人と5・6年生になると4年生の約半数になる。「古い家に歴史を感じる」子どもが8割であったことと比較して考えると、中町通りの「古さ」を否定的に見る子どもは殆どおらず、むしろ歴史ある通りとして肯定的に捉えられていることがわかる。その他の否定的要素である「町並みがごちゃごちゃしている」「町並みがきたない」「つめたい感じがする」「同じような家ばかりでつまらない」については、各項目ともに1割未満ないし1割程度で、学年があがるほどその比率は小さい。上学年になるほど歴史的町並みに対して否定的見方をする子どもは減り、また町並みの醸し出す景観や雰囲気にも親しみを抱いているようだ。

(2) 「商店街通り」及び「国道56号線」の評価

かつて町の流通の中心として賑わった商店街通りの両側には様々な店が建ち並んでいる。しかし、近年、大型店舗の郊外進出等により、その賑わいが減りつつある。この商店街通りに対する評価は、「町がカラフルで楽しい」とするのが約7割、「人通りが多く活気がある」が約5割で、その他の項目に対しては、ほぼ3割以下である(表3)。

そして「親しみがある」とするのは、4年生28.2%、5年生31.1%、6年生33.0%と、学年があがるにつれて商店街通りを肯定的に見る比率が大きくなるのに対して、「町並みがきちんとしている」とするのは、4年生36.8%、5年生32.0%、6年生13.2%、また、「町並みがきれい」だとするのは、4年生35.9%、5年生30.1%、6年生13.2%であり、結果的に「町並みがきたない」とするのは、4年生6.0%、5年生12.6%、6年生14.3%であり、各項目とも学年があがるにつれて商店街通りに対する評価は大凡低くなっている。

国道56号線は、町の主要機関が集中する卯之町の中心であるとともに、町の外部との交流を担うパイプ役を果たしている。子ども達の目には、コンクリートの建物が道の両側に建ち並ぶ

表2 「中町通り」の評価

| | 町並みが きちんと している | 町並みが きれい | 町並みが 落ち着いた ている | 親しみが ある | 古い家に 歴史を感 じる | 木の家に 温かみを 感じる | 建物や町 並みが古 くさい | 町並みが ごちゃご ちゃして いる | 町並みが きたない | つめたい 感じがす る | 同じよう な家ばか りでつま らない | 人通りが 少なくて 寂しい | 実数 |
|-----|----------------------|-------------|----------------------|-------------|--------------------|---------------------|---------------------|----------------------------|--------------|-------------------|-----------------------------|---------------------|-----|
| 4年生 | 51 43.6 | 44 37.6 | 93 79.5 | 32 27.4 | 99 84.6 | 60 51.3 | 16 13.7 | 4 3.4 | 6 5.1 | 14 12.0 | 21 17.9 | 54 46.2 | 117 |
| 5年生 | 51 49.5 | 42 40.8 | 77 74.8 | 35 34.0 | 80 77.7 | 54 52.4 | 8 7.8 | 3 2.9 | 3 2.9 | 7 6.8 | 6 5.8 | 26 25.2 | 103 |
| 6年生 | 40 44.0 | 35 38.5 | 70 76.9 | 36 39.6 | 74 81.3 | 41 45.1 | 9 9.1 | 1 1.1 | 2 2.2 | 6 6.6 | 7 7.7 | 34 37.4 | 91 |
| 合計 | 142 45.7 | 121 38.9 | 240 77.2 | 103 33.1 | 253 81.4 | 155 49.8 | 33 10.6 | 8 2.6 | 11 3.5 | 27 8.7 | 34 10.9 | 114 36.7 | 311 |

表3 「商店街通り」の評価

| | 町並みが きちんと している | 町並みが きれい | 人通りが 多く活気 がある | 親しみが ある | 町並みが 近代的 | 町がカラ フルで榮 しい | 建物や町 並みが古 くさい | 町並みが ごちゃご ちゃして いる | 町並みが きたない | つめたい 感じがす る | 同じよう な店ばか りでつま らない | 通りに活 気がなく て寂しい | 実数 |
|-----|----------------------|-------------|---------------------|------------|-------------|--------------------|---------------------|----------------------------|--------------|-------------------|-----------------------------|----------------------|-----|
| 4年生 | 43 36.8 | 42 35.9 | 62 53.0 | 33 28.2 | 42 35.9 | 96 82.1 | 4 3.4 | 35 29.9 | 7 6.0 | 11 9.4 | 9 7.7 | 15 12.8 | 117 |
| 5年生 | 33 32.0 | 31 30.1 | 55 53.4 | 32 31.1 | 26 25.2 | 71 68.9 | 8 7.8 | 26 25.2 | 13 12.6 | 9 8.7 | 11 10.7 | 9 8.7 | 103 |
| 6年生 | 12 13.2 | 12 13.2 | 53 58.2 | 30 33.0 | 18 19.8 | 45 49.5 | 5 5.5 | 26 28.6 | 13 14.3 | 15 5.5 | 3 3.3 | 10 11.0 | 91 |
| 合計 | 88 28.3 | 85 27.3 | 170 54.7 | 95 30.5 | 86 27.7 | 212 68.2 | 17 5.5 | 87 28.0 | 33 10.6 | 25 8.0 | 23 7.4 | 34 10.9 | 311 |

表4 「国道56号線」の評価

| | 町並みが きちんと している | 町並みが きれい | 車が多く 通りに活 気がある | 親しみが ある | 町並みが 近代的 | コンク リートの 建物がか っこいい | 建物や町 並みが古 くさい | 町並みが ごちゃご ちゃして いる | 町並みが きたない | つめたい 感じがす る | 同じよう な建物ば かりでつ まらない | 歩く人が 少なくて 寂しい | 実数 |
|-----|----------------------|-------------|----------------------|------------|-------------|-----------------------------|---------------------|----------------------------|--------------|-------------------|------------------------------|---------------------|-----|
| 4年生 | 64 54.7 | 45 38.5 | 99 84.6 | 26 22.2 | 35 29.9 | 30 25.6 | 3 2.6 | 18 15.4 | 9 7.7 | 10 8.5 | 9 7.7 | 37 31.6 | 117 |
| 5年生 | 45 43.7 | 26 25.2 | 51 49.5 | 13 12.6 | 32 31.1 | 19 18.4 | 4 3.9 | 15 14.6 | 9 8.7 | 20 19.4 | 9 8.7 | 29 28.2 | 103 |
| 6年生 | 30 33.0 | 18 19.8 | 63 69.2 | 20 22.0 | 28 30.8 | 15 16.5 | 3 3.3 | 8 8.8 | 7 7.7 | 8 8.8 | 12 13.2 | 23 25.3 | 91 |
| 各計 | 139 44.7 | 89 28.6 | 213 68.5 | 59 19.0 | 95 30.5 | 64 20.6 | 10 3.2 | 41 13.2 | 25 8.0 | 38 12.2 | 30 9.6 | 89 28.6 | 311 |

景観は、中町通りとは極めて対照的に映り、その評価は「車が多く通りに活気がある」約7割、「町並みがきちんとしている」約4割強であるほかは、各項目とも3割以下である（表4）。

しかし、3つの通りの中で一番新しい通りである国道56号線を「町並みが近代的」とするのは約3割にすぎず、また、「町並みがきれい」「町並みがきちんとしている」ことについては、学年があがるにつれてその比率は小さくなり、結果的に町並みとして低い評価をする子どもの割合が増えていく。

(3) 子どもの目からみた3つの通りー共通項目を中心に

3つの通りに共通して用いた選択項目を中心に比較検討していくと、まず、「町並みがきちんとしている」と感じる子どもは、中町通り・国道56号線については約半数、対して商店街通りについては約3割である。子ども達の目に映るきちんとした町並みとは、中町通りであれば木造の町家が並んでいたり、国道56号線ではコンクリートの建物が並んでいたりするように、同じような材質・造りの建物が並んでいることであるようだ。しかし、「同じような家・店・建物ばかりでつまらない」とする子ども達は、中町通りについては、4年生17.9%、5年生5.8%、6年生7.7%と4年生に比べて5・6年生の比率が小さいのに対して、国道56号線に関しては、4年生7.7%、5年生8.7%、6年生13.2%と学年があがるにつれて比率が増えている。中町通り・国道56号線のいずれも「同じような建物」が並ぶ通りではあるが、中町通りに関して、それを「つまらないもの」と評する子ども達は学年があがるにつれ漸次減っていく。このように、子ども達の歴史的建物群に対する評価が少しばかり高いことが窺える。

「きちんとしている」こととは逆に、それぞれの「町並みがちゃごちゃしている」かどうかを尋ねると、中町通りに関しては殆どなく、国道56号線に関しては約1割、商店街通りに関しては約3割がその乱雑さを指摘しており、結果的に3つの通りの中では、中町通りに整った町並みとしての印象を抱いていると言える。

次に「町並みがきれい」なことについて、中町通りに関しては約4割、商店街通り・国道56号線に関しては各約3割である。逆に、「町並みがきたない」とする子どもは、中町通りに関しては殆どおらず、商店街通り・国道56号線に関してはそれぞれ約1割である。大きな差はないものの、中町通りへの評価はほかの通りに比べて高く、3つの通りの中で、もっともきれいな美しい通りとして捉えられているようだ。

「建物や町並みが古くさい」と指摘する子どもは、中町通りについては約1割、商店街通り・国道56号線に関してはほとんどいない。中町通りは他の通りに比べて、わずかではあるが「古い」という見方が強い。しかし、「古い家に歴史を感じる」とする子どもが約8割、「木の家に温かみを感じる」とする子どもが約5割、「町並みが落ち着いた」とする子どもが約7割となることなど、歴史的町並みとしての評価が高く、多くが「古い」ことを肯定的に捉えているようだ。

「親しみがある」ことについては、各通りとも約2～3割であり、また、「つめたい感じがする」ことについては約1割で、学年間の差はみられない。子ども達は全体として、どの通りに対しても否定的評価は低く、いずれも自分たちの住む町の身近な空間として肯定的に受けとめているように思われる。しかしながら、こと中町通りに関しては、各項目とも回答率が高く、また商店街通り・国道56号線に比べても「町並み」への評価が高いことから、歴史的町並みとしての価値を少なからず認識し、また大きな親しみを抱いているように思われる。

4. 歴史的町並み景観に対する子どもの意識—中町通りに対する好感度と評価の関わり

卯之町を縦断する3つの通り—中町通り・商店街通り・国道56号線—に対する評価と並行して、子ども達には各通りの写真1～3（現物はカラー写真）を提示し、好きな順に書いてもらう作業を課した。並び方は6通りであり、各比率は以下のような結果となる。

- イ) 中町通り・商店街通り・国道56号線：28.6%
- ロ) 中町通り・国道56号線・商店街通り：14.5%
- ハ) 商店街通り・中町通り・国道56号線：23.8%
- ニ) 国道56号線・中町通り・商店街通り：2.9%
- ホ) 商店街通り・国道56号線・中町通り：21.2%
- ヘ) 国道56号線・商店街通り・中町通り：9.0%

ところで、「3. (3)」で検討したように、子ども達は中町通りに対して、他の2つの通りとは異なる様々な価値を見出そうとしており、特に、歴史的町並みとして子ども達は特別な思いを抱いていると思われる。そこで、子ども達の町並みへの好みや評価と町並みの保存に対する意識やまちづくりへの関心などに注目し、中町通りへの「好みの強さ」によるグループ分けを次のように試みた。

即ち、写真を通して子ども達の町並みへの好みの度合を「好感度」とすると、イ及びロは中町通りに示す好感度が強いグループ（＝好感派）、ハ及びニは中町通りに示す好感度が中程度のグループ（＝中間派）、ホ及びヘは中町通りに示す好感度が弱いグループ（＝非好感派）と分けることができる。

それぞれのグループの比率は、好感派4割強、中間派3割弱、非好感派約3割であり、強い好感を示す子どもがやや多いと言える。学年別には、4年生41.0%、5年生39.8%、6年生49.4%で、5年生がやや少ないものの、いずれも好感派の子どもが一番多くなる。半数弱の子ども達が中町通りを好ましく思い、また身近に感じていると言えそうだ（図2）。

次章では、さらに詳しく子ども達の思いを把握するため、「学年」別の分析に加え、「好感度」別のカテゴリを用いつつ、彼らの中町通りに対する好みの強さを軸に分析を進めていくこととする。

| | 好感派 | 中間派 | 非好感派 |
|-----|------|------|------|
| 全体 | 43.1 | 26.7 | 30.2 |
| 4年生 | 41.0 | 24.8 | 34.2 |
| 5年生 | 39.8 | 29.1 | 31.1 |
| 6年生 | 49.4 | 26.4 | 24.2 |

図2 学年別好感度の割合



写真1 中町通り



写真2 商店街通り



写真3 国道56号線

5. 子どもの歴史的町並みに対する認識

(1) 「中町通り」への親しみ—名所旧跡への認知度を通して

小さな町で、子ども達の行動範囲には適当な大きさであるため、自分たちの住む町を把握するのは大凡充分であり、提示した10の施設のうち7施設が6割を超える知名度となっている。

「宇和町米博物館」「愛媛県歴史文化博物館」「先哲記念館」「開明学校」などの大きな施設や有名な施設は、当然のことながら知名度は高く、好感度や学年別に関わらず8～9割を越える比率となっている。ただ、非好感派に注目すると、どの施設についても他に比べてやや関心が低く、特に、小さい施設やあまり有名ではない施設についてはその差が大きくなる。中町通りへの好感度の弱さが、結果的に町の歴史的文化的施設に対する興味関心の低さとなって現れている(表5)。

表5 名所旧跡への認知度

| | | 宇和町米博物館 | 愛媛県歴史文化博物館 | 先哲記念館 | 開明学校 | 高野長英の隠れ家 | 民具館 | 文化の里休憩所 | 申義堂 | 光教寺 | 歴史民俗資料館 | 実数 |
|-----|------|--------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| 学年別 | 4年生 | 116 99.1 | 112 95.7 | 111 94.9 | 108 92.3 | 86 73.5 | 77 65.8 | 54 46.2 | 72 61.5 | 37 31.6 | 24 20.5 | 117 |
| | 5年生 | 101 98.1 | 101 98.1 | 100 97.1 | 100 97.1 | 86 83.5 | 96 93.2 | 88 85.4 | 73 70.9 | 68 66.0 | 52 50.5 | 103 |
| | 6年生 | 89 97.8 | 88 96.7 | 88 96.7 | 88 96.7 | 73 80.2 | 69 75.8 | 56 61.5 | 39 42.9 | 27 29.7 | 32 35.2 | 91 |
| 好感度 | 好感派 | 134 100.0 | 128 95.5 | 134 100.0 | 126 94.0 | 112 83.6 | 110 82.1 | 91 67.9 | 86 64.2 | 57 42.5 | 60 44.8 | 134 |
| | 中間派 | 82 98.8 | 81 97.6 | 81 97.6 | 81 97.6 | 66 79.5 | 67 80.7 | 54 65.1 | 56 67.5 | 36 43.4 | 25 30.1 | 83 |
| | 非好感派 | 90 95.7 | 92 97.9 | 84 89.4 | 89 94.7 | 67 71.3 | 65 69.1 | 53 56.4 | 42 44.7 | 39 41.5 | 23 24.5 | 94 |
| 各 計 | | 306 98.4 | 301 96.8 | 299 96.1 | 296 95.2 | 245 78.8 | 242 77.8 | 198 63.7 | 184 59.2 | 132 42.4 | 108 34.7 | 311 |

(2) 「中町通り」の保存に対する意識

1) 町並みの保存の必要性

子ども達の多くが、歴史的町並みである中町通りに対して好感を抱いているわけだが、ではそれらを町並みとして「保存」することについてはどう考えているのであろうか。

「古い町並みを残した方がよい」と答えた子どもは8割と高率で、保存の意識は高い。好感度でみると、好感派89.6%、

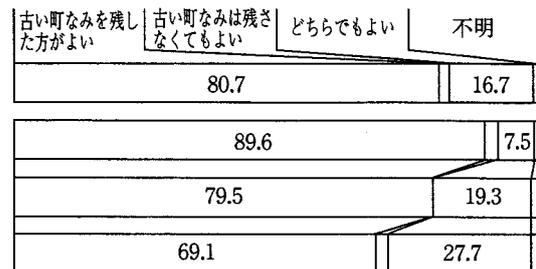


図3 好感度別町並み保存の意識

中間派79.5%，非好感派69.1%で、中町通りに対する好感度が強いほど、保存の意識が高いことが窺える（図3）。

学年別にみていくと、4年生81.2%、5年生85.5%、6年生74.7%が「古い町並みを残した方がよい」と答え、6年生でその割合がやや少なくなる。そして、「どちらでもよい」とする子どもは、4

年生7.5%、5年生19.3%、6年生27.7%と漸次増加し、町並みの保存に対する意識は学年があがるにつれて揺れていく（図4）。

年齢とともに子どもらの行動範囲は拡大し、周囲の環境に対する視野が広がってくることで、様々な町並みの形態に対する理解や認識が高まり、歴史的町並みの価値がよくわかるようになるものの、町並みの保存の難しさなども認識し、単に好みだけで保存を主張することができなくなったのではないだろうか。このように保存に対する意識の揺れはあるものの、どの学年においても、「古い町並みを残した方がよい」とする子どもが大半を占めており、多くが中町の歴史的町並みの保存を望んでいることは見逃せない事実である。

2) 町並みの保存の意義

次に、「古い町並みを残した方がよい」と答えた子どもに対して、その理由を尋ねた。保存の主な理由は、ストレートに「古い町並みが好きだから」とする子ども達はほぼ半数、学年別では、4年生43.6%、5年生60.2%、6年生30.8%となっており、6年生は5年生の半分となっている。また「宇和町の名所だから」とする子ども達は約6割、学年別では、4年生64.1%、5年生61.2%、6年生53.8%となっている（表6）。

4・5年生では、上述の「古い町並みが好きだから」「宇和町の名所だから」の2つが主な

| | 古い町並みを残した方がよい | 古い町並みは残さなくてもよい | どちらでもよい | 不明 |
|-------|---------------|----------------|---------|------|
| 全 体 | 80.7 | | | 16.7 |
| 4 年 生 | 81.2 | | | 17.9 |
| 5 年 生 | 85.5 | | | 10.7 |
| 6 年 生 | 74.7 | | | 22.0 |

図4 学年別町並み保存の意識

表6 町並み保存の意義

| | | 宇和町の名所だから | 古い町並みが好きだから | 観光客がたくさんきて賑わうから | 古い町並みはねうちがあるから | 古い町並みは心が落ちつくから | 町の昔の様子がわかるから | 実数 |
|-------------|-------|-------------|-------------|-----------------|----------------|----------------|--------------|-----|
| | | | | | | | | |
| 学 年 別 | 4 年 生 | 75 64.1 | 51 43.6 | 24 20.5 | 17 14.5 | 5 4.3 | 5 4.3 | 117 |
| | 5 年 生 | 63 61.2 | 62 60.2 | 34 33.0 | 21 20.4 | 1 1.0 | 1 1.0 | 103 |
| | 6 年 生 | 49 53.8 | 28 30.8 | 21 23.1 | 31 34.1 | 4 4.4 | 3 3.3 | 91 |
| 好 感 度 | 好 感 派 | 89 74.2 | 86 71.7 | 31 23.8 | 32 26.7 | 9 7.5 | 4 3.3 | 120 |
| | 中 間 派 | 49 75.7 | 31 47.7 | 24 36.9 | 20 30.8 | 1 1.5 | 1 1.5 | 65 |
| | 非好感派 | 49 76.6 | 24 37.5 | 24 37.5 | 17 26.6 | — — | 4 6.3 | 64 |
| 各 | 計 | 187 74.5 | 141 56.2 | 79 31.8 | 69 27.5 | 10 4.0 | 9 3.6 | 251 |

理由となっているが、6年生では、それらの理由が減少する一方で、「古い町並はねうちがあるから」とする子どもの割合が増加し、歴史的町並みとしての価値に重きを置く子どもが増加する。

このように、学年があがるにつれて、その価値を強く意識するようになる一方で、好感を持つ割合は減少する。これは、保存の必要性について6年生の意識を推察したように、年齢とともに周囲の環境に対する視野が広がり、町を客観視することができるようになった結果であろうと思われる。

好感度でみていくと、「宇和町の名所だから」については、3つのグループの差は殆どないが、「古い町並みが好きだから」については、好感派71.7%、中間派47.7%、非好感派37.5%と、好感度が強いほどその割合が高くなり、それ故、非好感派の歴史的町並みに対する興味関心の薄さを物語るものともなっている。

(3) 子どものまちづくり参加への意欲

1) まちづくりや町並みの歴史についての学習機会

子ども達に町の歴史や文化について知った機会を尋ねたところ、主たるものは「学校の授業で聞いた」84.9%、「博物館や先哲記念館を訪ねて知った」55.3%、「家族や近所の人に聞いて知った」40.2%であり、その他の項目については低い比率である。学校の授業や町の行事と大きく関連している項目に関しては比率が大きいことが指摘できる(表7)。

好感度でみていくと、「学校の授業で聞いて知った」ことなどについては、あまり差はみられないが、主体的要素である「家族や近所の人に聞いて知った」については、好感派42.5%、中間派38.6%、非好感派38.3%、「自分で本を読んで調べた」ことについては、好感派37.3%、中間派33.7%、非好感派16.0%となり、好感度が強いほどその割合が高い。中町通りへの好感度の強さが学習意欲の強さとしても大きく現れている。

表7 まちづくりや町並みの歴史についての学習機会

| | | 学校の授業で聞いて知った | 博物館や先哲記念館を訪ねて知った | 家族や近所の人に聞いて知った | 自分で本を読んで調べた | 町並みに出かけて聞いて知った | 役場で聞いて知った | 子供会などの行事を通して知った | 実数 |
|-----|------|--------------|------------------|----------------|-------------|----------------|-----------|-----------------|-----|
| 学年別 | 4年生 | 102 87.2 | 67 57.3 | 46 39.3 | 54 46.2 | 19 16.2 | 4 3.4 | — — | 117 |
| | 5年生 | 92 89.3 | 59 57.3 | 48 46.6 | 30 29.1 | 16 15.5 | 5 4.9 | 1 1.0 | 103 |
| | 6年生 | 70 76.9 | 46 50.5 | 31 34.1 | 9 9.9 | 13 14.3 | 3 3.3 | 1 1.1 | 91 |
| 好感度 | 好感派 | 114 85.1 | 75 56.0 | 57 42.5 | 50 37.3 | 28 20.9 | 4 3.0 | 1 0.7 | 134 |
| | 中間派 | 69 83.1 | 51 61.4 | 32 38.6 | 28 33.7 | 11 13.3 | 3 3.6 | 1 1.2 | 83 |
| | 非好感派 | 81 86.2 | 46 48.9 | 36 38.3 | 15 16.0 | 9 9.6 | 5 5.3 | — — | 94 |
| 各計 | | 264 84.9 | 172 55.3 | 125 40.2 | 93 29.9 | 48 15.4 | 12 3.9 | 2 0.6 | 311 |

表8 行政や地域に望むこと

| | 木や花々や緑をふやす | 古い町並みを残していく努力をする | 昔からの行事をもりあげる | 人々が交流できる施設をふやす | 観光施設や新しい店をふやす | 町の歴史や産業の宣伝をする | 交通を便利にする | 町の問題について話し合う | 実数 |
|------|-------------|------------------|--------------|----------------|---------------|---------------|-------------|--------------|-----|
| 好感派 | 117 87.3 | 106 79.1 | 75 56.0 | 79 59.0 | 41 30.6 | 44 32.8 | 40 29.9 | 42 31.3 | 134 |
| 中間派 | 71 85.5 | 48 57.8 | 45 54.2 | 43 51.8 | 40 48.2 | 28 33.7 | 30 36.1 | 27 32.5 | 83 |
| 非好感派 | 82 87.2 | 46 48.9 | 46 48.9 | 35 37.2 | 43 45.7 | 35 37.2 | 33 35.1 | 25 26.6 | 94 |
| 合計 | 270 86.8 | 200 64.3 | 166 53.4 | 157 50.5 | 124 39.9 | 107 34.4 | 103 33.1 | 94 30.2 | 311 |

学年で見ると、6年生の学習意欲はやや低く、対して4年生は高い。4年生での社会科の地域学習の影響が大きいものとも思われる。このように学校の授業による影響が、まちづくりに関する学習の機会や意欲としてあらわれていることから、学校教育が果たす役割には少なくないものがありそうだ。

2) 行政や地域に望むこと

町を良くするために行政や地域で取り組みばよいと思うことについては、「木や花々や緑をふやす」86.8%、「古い町並みを残していく努力をする」64.3%、「昔からの行事をもりあげる」53.4%など、多彩な内容があげられる(表8)。

また、「町の問題について話し合う」「町の歴史や産業の宣伝をする」「交通を便利にする」ことなどについては、子どもの目には必ずしも有効な、或いは理解できる手段としては映っていないようであり、3~4割に止まっている。

町並み整備に関連した施設投入については、「人々が交流できる施設をふやす」ことには50.5%、「観光施設や新しい店をふやす」ことには39.9%の子ども達が賛同している。両者ともに施設をふやすことであるのに、その捉え方は大きく異なる。実際、好感度に注目してみると、「人々が交流できる施設をふやす」ことについては、好感派59.0%、非好感派37.2%、となるのに対して「観光施設や新しい店をふやす」ことについては、それぞれ30.6%、45.7%と逆転する。恐らく、多くの好感派の子ども達に顕著に見られるように、日常的に目に映る「文化の里休憩所」的な交流施設については肯定的なのだが、新しい施設に関しては、町並み保存と果たして両立するかどうかを含めて、やや慎重に受け止めていると思われる。

3) まちづくりに対する子どもの主体的取り組み

町を良くするために子ども達自身がしたいことやできることを尋ねてみると、行政や地域に望むことに比べ消極的であるものの、「町の行事に参加する」ことについては61.4%、「町の掃除や木や花々の世話をする」ことには57.9%が賛意を示し、まちづくりに主体的に関わっていく意欲がみられる(表9)。

他方、「町並みの歴史について勉強する」「古い町並みを残す方法を勉強する」ことなど、自らの学習に関してはやはり腰が重く、3割前後と少なくなる。しかしこの数値は必ずしも小さいとは言えず、実際、好感派における歴史の勉強の必要性を上げた比率は5割近くに達し、学習と町並みへの愛着が連動することが読みとれ、まちづくりの主体者として育ちゆくことが可

表9 まちづくりに対する子どもの主体的取り組み

| | 町の行事 に参加する | 町の掃除 や木や花 々の世話 をする | 町並みの 歴史につ いて勉強 をする | 町の問題 について 学校や家 で話し合 う | 古い町並 みを残す 方法を勉 強する | 町並みの スケッチ 大会に参 加する | 見学に行 く | 実数 |
|------|---------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------|-----|
| 好感派 | 90 67.2 | 79 59.0 | 64 47.8 | 37 27.6 | 39 29.1 | 30 22.4 | 2 1.5 | 134 |
| 中間派 | 45 54.2 | 54 65.1 | 22 26.5 | 35 42.2 | 27 32.5 | 18 21.7 | 2 2.4 | 83 |
| 非好感派 | 56 59.6 | 47 50.0 | 24 25.5 | 25 26.6 | 17 18.1 | 19 20.2 | 2 2.1 | 94 |
| 合計 | 191 61.4 | 180 57.9 | 110 35.4 | 87 28.0 | 83 26.7 | 67 21.5 | 6 1.9 | 311 |

能なことを示唆している。

6. ま と め

子ども達の多くは、中町通りの古い町並みに好感を抱くとともに、その歴史的価値について彼らなりに強く認めており、またまちづくりに対する関心や意欲も少なからず抱いているといえる。

だが、そういった関心や意欲は、地域に対する興味が広がり始める4年生頃から順当に育っていくわけでもない。学年が上がり、様々な判断力が形成されても、必ずしも町並み保存やまちづくりの意義にそれらが結びついているとは限らない。しかし、その中であって、町並みが好きだと称する子ども達に、地域学習（或いはまちづくり学習）の機会が比較的多く存在したことや、町並み保存の意義や学習の必要性に理解を示すのが多いことは、次代のまちづくりの担い手確保としては、楽しい事実である。

そうだとすると、子ども達の町並み保存やまちづくりに対する興味や関心を喚起していくには、町並み見学や散策、また学校教育・社会教育における学習の機会を数多く設けること、或いは美観運動等を兼ねたボランティア作業なども啓発していくことが、こうした子ども達の存在を増やすことにつながり、まちづくりへの理解がさらに深まると思われる。

町並み保存を軸にしたまちづくりには、長い時間と複雑な手続きが欠かせず、そのためにも子どもたちには町並みに対する「トポフィリア（地域愛・場所愛）」とでもいうような愛着形成が大切な一歩となる。子ども達がそうした意味に気づき、自らがまちづくりの担い手として育ちゆくと同時に、子どもと大人が手を携えて、楽しみながら参加できるまちづくり活動として発展していくことが望まれる。

最後に、本調査は「宇和町伝統的建造物群保存対策調査」（宇和町）の一部であることを断っておくとともに、研究を進めるに当たって、宇和町文化の里振興課、並びに宇和町小学校の先生方、児童の皆さんの多大なる協力を得た。付記して感謝の意を表したい。

— 引用文献 —

- 1) 曲田清維：子どもの町並み景観認識—町並みとの調和からみた景観評価—，環境教育 VOL. 2 - 2，pp. 2～13，1993年
- 2) 曲田清維：子どものためのまちづくり学習の研究—写真投影法からみたまちづくり参加の効用—，日本建築学会梗概集F-1，pp. 369～370，1997年

— 参考文献 —

- 1) 曲田清維：現代住まい論のフロンティア，第15章 参加と教育のまちづくり—未来を担う子ども達—，ミネルヴァ書房，1996年
- 2) 西村幸夫：歴史を生かしたまちづくり—英国シビック・デザイン運動から，古今書院，1993年。